

10月5日(日) 主日礼拝レジュメ

「ふさわしい礼拝とは」ローマ人への手紙12章1～2節

1節の「ふさわしい」は、新改訳第三版までは「靈的」、新共同訳では、「なすべき」。新約聖書では、ペテロの手紙第一2章2節に同じ言葉が用いられている。新改訳2017「純粋な霊の乳」、新共同訳「混じりけのない霊の乳」、新改訳第三版「純粋なみことばの乳」。やはり「霊の」と訳されている。なぜ新改訳2017は、「靈的な」から「ふさわしい」へ訳語を変えたのか。解釈の可能性として、一つは、靈的な=内なるもの。二つ目が、神のあわれみと恵みによって新しくされた者たちがささげる礼拝、あなたがたのからだを神に受け入れられる聖い、生きた供え物としてささげなさいといわれているような礼拝をささげるといふこと。すなわち、**私たちが私たちのからだも含めて全存在を聖い、生きた供え物としてささげることこそが、私たちにとってのふさわしい礼拝**になりうる。

礼拝とは、**毎日の生活の中で起こる具体的な出来事の中で神にささげきった状態で歩むこと**。神にささげきった状態での仕事、子育て、家事、教会の奉仕も、すべて礼拝。神を礼拝する者は自分の全存在を神にささげて生きていくということ。そして、自分のするすべてのことを通して神の栄光が現わされ、神がほめたたえられるようにされていくということ。

2節「この世と調子を合わせてはいけません。」

調子を合わせるとは、罪に支配された世のやり方に合わせるということ。神のみこころ、神の命令に自分を合わせていかなければならない私たちとは生き方が異なる。世と調子を合わせることは当たり前のことではなく、大いに矛盾することであり、あってはならないことだと知るべき。それは、人間の側でなされるべきこと。

私たちは賜物としての聖霊が私たちの内に住んでくださっているのです、その聖霊の助けによって、私たちはこの世に対して調子を合わせないように歩む。

私たちは、世と調子を合わせてはいないか。

毎日の生活が、「ふさわしい礼拝です」と言える歩みとなっているか。